

ユネスコ世界ジオパークの再認定審査が行われます！

ジオパークは、4年に1度の再認定審査を受け、一定のレベルの高さを維持することが義務づけられています。

洞爺湖有珠山ジオパークは、2017年のユネスコ世界ジオパーク（UGGp）の再認定審査で「2年間の条件付再認定」という結果でした。今年はユネスコ執行委員会で選ばれた下記2名の審査員が来道し、前回の指摘事項の改善状況を確認する予定です。

○ 再認定審査期間 2019年7月26日（金）～7月28日（日）

～ 審査員の紹介 ～



パトリシオ・メロー教授
Prof. Dr. Patricio Melo

- ・ブラジル
- ・アラリペ UGGp 事務局長
- ・カリリ地域大学学長
- ・世界ジオパークネットワーク執行委員会委員

メロー教授が在籍する

アラリペ ユネスコ世界ジオパーク

(Geopark Araripe)

ブラジル北東部のセアラ州に位置し、2006年に世界ジオパーク認定を受けた。

古生物学の研究が進んでいて、特に白亜紀前期（約1億2千万年前）の化石の産地として世界的に有名な地域。

プレカンブリア紀、古生代、中生代の化石の他、地域の先住民族の歴史文化についても普及活動を行っている。



1億2千万年前の
トンボの化石(HPより)



ヘニング・ツェルマー博士
Dr. Henning Zellmer

- ・ドイツ
- ・ハルツ・ブラウンシュヴァイガー・ラント・オストファーレン UGGp の地質学者

ヘニング博士が在籍する

ハルツ・ブラウンシュヴァイガー・ラント・オストファーレン UGGp

(Geopark Harz Braunschweiger Land Ostfalen)

ベルリンから西へ約240kmに位置し、2005年に世界ジオパークの認定を受けた。

古生代の堆積岩・火成岩でできたハルツ山脈と、その北側にある、化石を多く含むブラウンシュヴァイガー・ラント地域で構成されている。ハルツ地方の鉱山は約1000年の歴史があり、産出する鉄鉱石や岩塩、石油等がドイツの産業を支えてきた。



白亜紀の砂岩層 (HPより)